

喫煙と歯周病

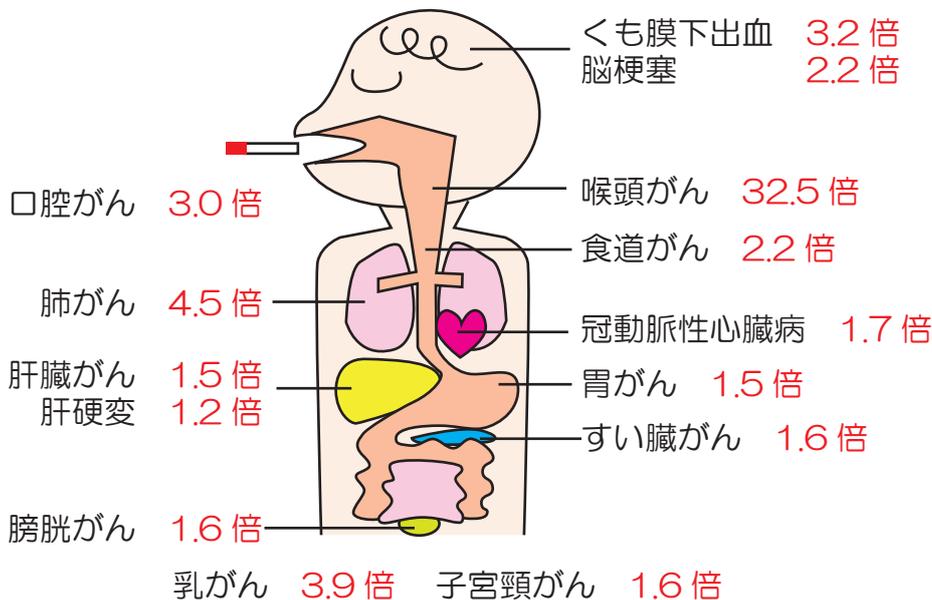
たばこの煙には 4,000 種以上の化学物質が含まれており、そのうち有害であることが分かっている物質は 200 種を超えています。喫煙と言うと肺炎を想像しますが、歯周病にも大きな危険因子として挙げられています。

喫煙者は吸わない人に比べて 2 ~ 9 倍歯周病になりやすい

喫煙による歯周病への影響

1. 歯肉に酸素や栄養を供給する血管が、タバコのニコチンにより収縮してしまいます。そして、歯肉への栄養が行かなくなり、歯周病の検査においては、病気の重症度が過小評価されてしまいます。
また、歯周病の自覚症状の1つの「歯磨きをして歯茎から血が出る」が、血管の収縮により抑制され、ご自身での発見が遅れてしまいます。
2. 歯周病菌と戦う白血球の機能（免疫能）が低下してしまい、少ない細菌数でも歯周病が発症してしまいます。
3. 歯と歯肉の境目にある溝の中の酸素が不足し、酸素が大嫌いな歯周病菌にとって繁殖しやすい環境を作ってしまいます。
4. 歯肉を修復するために必要な機能が抑制され、歯周治療に対し反応が悪く直りにくい状態になってしまいます。

喫煙による全身への影響



世界保健機関（WHO）などによる試算では、世界中で年間約 300 万人が、たばこが原因で死亡しています。

非喫煙者と比較した喫煙者の死亡率

